

Aグループ 共有事例（文責：白鳥 安夏）

「吉正じゃんけん甲子園」を開催

吉正運輸倉庫 様

コロナの影響より社内のコミュニケーションが取りづらくなったため、社内イベントとして「吉正じゃんけん甲子園」を開催した。じゃんけんは、オンライン(zoom)で行い、勝敗の結果はLINE WORKSで全社員に共有している。優勝チームには豪華賞品を用意しており、イベントを通じてコロナ禍でも普段会えない社員とのコミュニケーションを図ることができている。



人事労務クラウド管理導入

トランス・グリップ 様



大量の書類印刷、封入、配送、回収、差し戻し……
人事・労務担当者をお悩ませてきた、
年末調整の課題を一挙に解決！

9月からクラウド人事労務ソフト (SmartHR)を導入した。年末調整や入退社手続きなど、今まで紙で管理していた書類を、スマホで用いてクラウド上で管理することが出来るようになった。ペーパーレス化や人事削減効果が大きく、今後も様々な業務に活用していく。

<https://smarthr.jp>

アマゾンスポット便システム (トラックマーケット)を運用スタート！

山岸運送 様

東海・関東地方に向けたアマゾンの配送サービス展開を強化するため、システムを利用したスポット便の獲得に協力する運びとなった。きっかけは、既にアマゾンの配送を行っている九州の中堅企業が同社の営業所付近に拠点を進出し、声がかかったためである。全国十数社しか閲覧できないシステムであり、同企業とのコラボ企画として協力会社に展開していく。スポット便獲得協力会社向けに説明会を実施し体制づくりに努めていく。

Bグループ 共有事例 (文責: 菊本 紗奈)

・ コミュニケーションツール

・ エスワイ・リンク 様

・ これまで営業や事務員に対し、個人携帯を所有させ、携帯電話が目立つようになり、同時にセキュリティ上の安全が保たれていないツール「Teams」を導入。電話番号の所有が会社へと移行されたために、以前まで6人の従業員に3千円の支給“1万8千円”のコストが削減されている。通話品質は一般の電話と同様でリモートワークをより円滑に

[https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-](https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-teams/group-chat-software)

[chat-software](#)



IOT機器の自社製作で 社内改善に向け大学教授と連携

トーコン 様

今後業界でAI化・ロボット化・自動化が進んでいく中、最新機器の導入だけでは他社との差別化が厳しいと判断。そこで注目したのは会社の再生力だ。導入機器に自ら手を加え改良していくことで、より自社にしかできない希少性を高められるよう大学の研究活動と協力関係の基、自社開発のスキル向上に向け取り組んでいる。現在センサーの自作でトラックの行き来を検知し、LINEアプリへ通知がいく仕組みを実現。今後はハンディターミナルや、フォークリフトバック中の事故を防ぐセンサーの製作に取組み、会社全体で自作文化を根付かせることを目標にしている。

障がい者の雇用機会拡大に貢献

松葉倉庫運輸 様

職場の多様性をはかり、障がい者雇用を積極的に取り入れている。地元の社会福祉法人（施設）と連携し、各倉庫周りの草刈り作業における外部委託を開始した。また現在、聴覚障がい者の高卒新卒者2名を採用しており、以前までフォークリフト運行中の危険を「音」で発信していたが、安全性が不十分であることを機に現場環境の改善を決意。浜松市のベンチャー企業と連携し、危険を「光」で知らせる新たな設備を導入した。

Cグループ 共有事例（文責：吉田 心）

AIロジレコ自社全車導入

萬運輸 様

自社の保有するトラック全車にAIロジレコを搭載した。今年に入り数件車両事故を起こしてしまったが、今後事故を起こさないように社内での安全教育を進めていくことが目的だ。ドライバー個々人の運転の悪い癖が抜けておらず、不注意運転としてAIロジレコに認識されるドライバーが多数出てくるなど、今まで気づけなかった情報を収集できている。今後はAIロジレコを活用してアラート検出されたドライバーに対してしっかりと安全教育を進めていくため安全マネジメント室が計画を立てている。



本体（外向きカメラ付き）



内向きカメラ



新人ドライバー即戦力化プロジェクト

梅里物流サービス 様

新人ドライバーの教育方法の見直しを行い新人ドライバーの即戦力化を図っている。まず営業所ごとに独自の教育方法を取っていたため、半年後の定着化を目標に9月から週に1度のペースで各拠点の責任者を集めてルールの全社統一化を行っている。既存の新人ドライバー教育マニュアル・添乗員指導マニュアルは存在するが古くなり教育に活用できていないため、再度見直しとブラッシュアップを行い今後の新人ドライバーの教育に活用していく。

ヒヤリハットマップの再作成

トッパン・フォームズ・サービス 様

数年前に作成していたヒヤリハットマップを見直し、再作成を行った。各拠点の危険箇所を明確化し従業員の安全向上を図ることが目的だ。今年起きた事故により、以前作成していた安全対策では対応出来ていないことが判明したため、改めてどこが危険箇所ですらに注意しないといけない場所なのかの確認を行った。今後は安全柵の設置など、今回ヒヤリハットマップの再作成のための調査で明確化出来た危険個所の対応を行っていく。